

# 事業報告書

## 事務局経営戦略課

### 1 法人の管理運営事業

定例評議員会を1回（6月21日）、定例理事会を2回（6月6日・3月14日）のほか、臨時理事会を1回（8月18日）、臨時評議員会を書面決議により2回（8月30日・3月26日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行うと共に、指定管理期間が満了となった宮崎市民プラザについては、新たな指定管理期間（令和6年度～令和10年度の5年間）における指定管理者として市から指定を受けた。

また、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

### 2 研修事業

内部研修・・・職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

階層別研修、特別研修（広報研修、不審者対応研修）などを実施した。

研修回数 14回 職員参加者数 延べ 199人

外部研修・・・宮崎県博物館等協議会の研修会に参加すると共に、防火管理者講習や、公益法人会計について学ぶ会計セミナー、電子帳簿保存法対策セミナー等に参加した。

### 3 健康管理事業

職員の健康管理のため、職員から産業医への健康相談ができるような体制を整え、長時間労働者への健康相談の勧奨のほか、各施設で合計6回の健康相談を計画し、延べ3人の利用があった。

### 4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

#### (1) 処遇の改善

職員の待遇改善を図るため、契約職員と無期転換職員の給料表の改正、及び非常勤職員と臨時職員の給料・賃金の改正を行った。併せて無期転換職員が再雇用となる場合の給料の項目を新たに追加した。（令和6年4月1日施行）。

#### (2) 協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町（宮崎市・国富町・綾町）に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年3回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育所等、宮崎銀行各支店、小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、各4、500部（年3回）

(3) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。

なお、意見交換会を2月に実施し、各種事業や各施設の改善点等を協議した。

意見交換会 1回 モニター人数 20人

(4) 子どものための音楽会の開催

様々なジャンルの音楽の生の演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

実施回数 4回 参加者数 延べ 509人

(5) 1日子ども館長の実施

子どもたちが「1日子ども館長」として「職」を体験することで、「働く」という意識や当協会が広く啓発する科学・自然・歴史・文化に興味関心を持つとともに、将来の職業意識を醸成するため、当協会が管理運営する各施設において、科学・自然・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

実施回数 4回 参加者数 19人

(6) 授業づくりサポート事業

学習学校教育支援の一環として、1市2町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくりの全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上を図った。

出前講座等の実施回数 2回 参加者数 255人

(7) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、令和6年2月22日（木）に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、研究事業表彰式を実施した。

研究本数 4本 研究者数 延べ5人

(8) ぶんしんきょうチャンネルの配信

協会内の各施設のホームページ上に開設している「ぶんしんきょうチャンネル」において、動画コンテンツを定期的に配信することにより、家にいながら各施設の魅力に触れることができるようになり、来館意欲を高めた。

動画掲載数 33本（令和6年3月末現在）

# 宮崎科学技術館

## 1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、令和5年度においても展示室、プラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

### (1) 利用状況

開館日数	304日	プラネタリウム投映日数	300日
入館者数	134,359人	利用者数	57,851人
1日平均入場者数	442人	1日平均利用者数	193人

※9/27 屋上防水工事の影響（騒音）により、臨時休館

※8/18・8/19 落雷による停電の影響により、プラネタリウム投映中止

※10/4 屋上防水工事の影響（騒音）により、プラネタリウムを無料開放として運営

※12/23 トワイライトミュージアム事業実施のため、開館時間を19時まで延長

※プラネタリウム利用者数は、プラネタリウム事業入場者数に、コンサートや貸館利用等の多目的利用を含んだ人数

### (2) 利用内訳

#### ① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	70,295人 (52.3%)
大人	64,064人 (47.7%)
合計	134,359人

#### ② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	117,731人 (87.6%)
団体	16,628人 (12.4%)
合計	134,359人

#### ③ 県内団体利用内訳

##### ・広域圏内（宮崎市・国富町・綾町）

幼稚園・保育所等	4,713人 (46.9%)
小学校	3,518人 (35.0%)
中学校	716人 (7.1%)
小・中合同	76人 (0.8%)
高等学校	207人 (2.0%)
一般	258人 (2.6%)
児童クラブ	262人 (2.6%)
福祉施設	309人 (3.0%)
合計	10,059人

##### ・広域圏外（宮崎県内上記以外）

幼稚園・保育所等	1,109人 (18.6%)
小学校	3,722人 (62.1%)
中学校	291人 (4.9%)

小・中合同	26人 (0.4%)
一般	175人 (2.9%)
児童クラブ	572人 (9.5%)
福祉施設	95人 (1.6%)
合 計	5,990人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育所等	24人 (4.1%)
小学校	72人 (12.4%)
中学校	20人 (3.5%)
一般	105人 (18.1%)
児童クラブ	358人 (61.9%)
合 計	579人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	14	579	100
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
海外	0	0	0
合計	14	579	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	20	3.4
佐賀	0	0	0
長崎	1	30	5.2
熊本	3	97	16.8
大分	1	27	4.7
鹿児島	8	405	69.9
沖縄	0	0	0
合計	14	579	100.0

## 2 常設展示事業

世界に2基しかないアポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、人気の4D-VR（2人乗り連動チェア）やVRゴーグル8台を設置し、先端科学技術を集約した展示物は約120点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を高めさせることができた。

なお、令和4年度からは、映像技術の最先端である3Dホログラムディスプレイや3D回転アームディスプレイを導入し、集客力の向上に努めた。

また、来館者自身が所持しているスマートフォンやタブレット端末に日本語や英語、中国語（繁体語）で展示案内の表示や音声案内ができるモバイルガイドシステムの導入や、日本語による解説文表示や音声案内により、外国人だけでなく視覚、聴覚に障がいのある方々にも利用しやすい環境を構築できた。

本年度は、仮想世界やトリック疑似体験できる「トリックプリントの世界」を常設し、来館者に印刷技術の最先端を味わってもらうことができた。この展示物は定期的に交換することで、再訪された方に対しても新たな驚きを体験してもらうことができた。

### 3 教室事業

#### (1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学する心」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、宮崎大学教育学部・農学部・工学部や宮崎航空大학교官、J S C (教育ボランティア)、宮崎大学の自然科学发展学習の学生と共に実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数 32回	参加者数 延べ	6, 004人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数 6回	参加者数 延べ	141人
③ 生きがい科学館	実施回数 7回	参加者数 延べ	79人
④ エンジョイサイエンス	実施回数 12回	参加者数 延べ	1, 233人
(工学部 6/11 108人、7/30 85人 / 農学部 7/16 54人、9/3 89人 /			
教育学部 11/19 43人、3/17 151人 / サイエンス 5/5 319人、12/17 59人、1/28 80人、			
2/18 54人 / みやざきキッズ サイエンスラボ 8/20 105人、3/9 86人)			
⑤ 宮崎少年少女発明クラブ	実施回数 19回	参加者数 延べ	562人
⑥ どろだんご教室	実施回数 2回	参加者数 延べ	120人
⑦ 科学技術週間工作教室	実施回数 2回	参加者数 延べ	170人
⑧ 自由研究サポート教室	実施回数 1回	参加者数 延べ	1人
⑨ なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数 12回	参加人数 延べ	815人
⑩ コスモランド教室	実施回数 12回	参加人数 延べ	1, 836人
⑪ サイエンス親子学習教室	実施回数 2回	参加人数 延べ	60人

#### (2) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生、中学3年生向けの学習プログラムを行った。事後の感想も好評であった。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数 延べ	387人
	小学6年生対象	1回	参加者数 延べ	143人
	中学3年生対象	1回	参加者数 延べ	37人

#### (3) プログラミング体験教室

学習指導要領の改訂に伴い、令和2年度から小学校でプログラミング学習が始まった。そこで、基礎から学ぶ機会を学校現場以外でも子どもたちに提供するため、プログラミングに初めて接する子どもたちに、タブレットを使って簡単な操作でプログラミング通りにドローンを動かすことができ、論理的思考を学習できる体験教室を行った。今回は、3日間連続受講によるレベルアップカリキュラムを組んだ教室と1日受講の基礎カリキュラムを組んだ教室の2種類を実施した。

開催期日	①単発 令和5年7月15日（土）・16日（日）・17日（月・祝）
	②連続 令和5年7月15日（土）・16日（日）・17日（月・祝）
対象者	①単発 小学3年生～中学生
	②連続 小学3年生～中学生
参加者数	①単発 93人 ②連続 89人

#### (4) 「プログラミング講座」(新規事業)

宮崎学園短期大学と連携し、小学校低学年向けのプログラミング講座を実施した。

開催期日 令和5年11月25日（土）

対象者 小学1年生～2年生

参加者数 63人

### 4 プラネタリウム事業

世界最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。

入場者数 延べ 53,079人

投映回数 923回

#### (1) 一般番組

##### ・永久投映権をもっている番組

「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」

「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」

「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」「太陽」

「国際宇宙ステーションからの眺め」「ゆるり星空めぐり 北極星を見てみよう！」

##### ・令和5年度から投映した新番組

「クレヨンしんちゃん」「紙兎ロペ」「ノーマン・ザ・スノーマン2」

「君と見る流れ星」「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」

「見えない宇宙に挑む」「Wayfinders」

#### (2) 学習番組

「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)

「スタジオ444」(小学4年生向け)

「国際宇宙ステーションからの眺め」(小学5年生向け)

「ポワンとフーニヤンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)

「ゆるり星空めぐり 北極星を見てみよう！」(中学1,2年生向け)

「この空に願いを込めて…」(中学生3年生向け)

#### (3) 自主製作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

#### (4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心を持ってもらうよう努めた。

実施回数 9回 参加者数 延べ 561人

#### (5) おはよう太陽・月の観望会

望遠鏡を使って午前中に見える太陽や月の観察会を実施した。

実施回数 3回 参加者数 延べ 150人

#### (6) スターウォッキング教室

宮崎市、国富町、綾町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもっていただくよう努めた。

実施回数 5回 参加者数 延べ 245人

#### (7) スターウォッキング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地（宮崎市久峰総合公園、アミュプラザみやざき屋上【雨天のため中止】）での観望会を開催した。

実施回数 1回 参加者数 延べ 40人（2回実施予定のうち1回は雨天のため中止）

#### (8) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが自由に声を出したり動いたりして楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 12回 参加者数 延べ 1,620人

#### (9) 部分日食観察会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として、宮崎科学技術館の玄関前で「部分日食」の観察会を4月20日（木）に開催した。

実施回数 1回 参加者数 34人

#### (10) 中秋の名月大観望会

日本古来の文化である「お月見」を身近に感じてもらうこと、そして宇宙・天文への興味関心の向上を目的として、宮崎科学技術館の玄関前で「中秋の名月」の観察会を9月29日（金）に開催した。

実施回数 1回 参加者数 150人

#### (11) プラネタリウムバッカヤードツアー

プラネタリウム誕生100周年を記念して、子ども向けと大人向けに分け、プラネタリウムのバッカヤードツアーを開催した。

開催期日 ①子ども向け 令和5年10月1日（日）・8日（日）・15日（日）・

21日（土）・22日（日）

②大人向け 令和6年1月13日（土）・27日（土）

参加者数 ①子ども向け 145人 ②大人向け 14人

#### (12) SORA-Q 操縦体験会・操縦大会

名月展に合わせて小型月着陸実証機SLIMに搭載された変形型月面ロボットSORA-Qの操縦体験会と操縦大会を開催した。

開催期日 ①操縦体験会 令和5年10月7日（土）・8日（日）  
令和6年1月6日（土）・7日（日）・20日（土）・28日（日）

令和6年2月10日（土）

②操縦大会 令和5年10月9日（月・祝）

参加者数 ①操縦体験会 348人 ②操縦大会 19人

(13) 大人向け特別投映 Valentine's Special Program

バレンタインに合わせて大人向け特別投映を開催した。アロマシールを活用して大人向けの演出も行った。

開催期日 令和6年2月10日（土）・14日（水）・24日（土）

参加者数 272人

(14) 月面探査ロボット SORA-Qフラグシップモデル展示

JAXAとタカラトミーなどが共同で開発した月面探査ロボット「SORA-Q」の展示を、期間限定で行った。また、月探査に関する映像などの放映・展示も行った。

開催期日 令和6年1月6日（土）～1月28日（日）

開催場所 1階展示室内

(15) H3ロケット試験機2号機打ち上げパブリックビューイング

H3ロケット試験機2号機の打ち上げに合わせてパブリックビューイングを実施した。また、パブリックビューイング後にサイエンスショー「ロケットショー」も実施した。

開催期日 令和6年2月17日（土）

開催場所 1階多目的ホール

参加者数 パブリックビューイング 40人 / ロケットショー 20人

## 5 文化振興事業

(1) 星空と音楽のタベ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家に活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで7月と9月に開催した。星空解説と音楽の生演奏という2部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 311人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽のタベ」より気軽に楽しんでいただくために、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを4月と12月に実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人々に楽しんでいただいた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 455人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム（アロマプラネタリウム）

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするために、星空の生解説を含め、魅力的なテーマを設定した投映を行った。アロマなどを活用し、来館者がより星空に親しめる内容にした。

実施回数 1回 参加者数 延べ 150人

(4) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子どもたちの情操教育を目的として、奇数月に幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映する演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらえるように努めた。

実施回数 6回 参加者数 延べ 801人

## 6 イベント事業

### (1) 主催事業

#### ① 企画展「あつ！と驚く トリックプリント展」

印刷技術の最先端を駆使した10点のパネル展示を、春休み期間中の企画展の一つとして行った。展示された作品をスマホやカメラでフラッシュ撮影すると画像が変わる等、来館者である子どもたちはもとより、大人も楽しみながら、仮想世界やトリック疑似体験を味わっていただく機会とした。

開催期日 令和5年3月25日（土）～4月9日（日）

開催場所 パソコン研修室

参加者数 3,799人（4月分）

#### ② 企画展「ドローン操作体験会＆ドローン操縦大会」

ドローン操縦体験会及びドローンサッカー大会を実施し、ドローンを楽しく飛行させる機会と日常生活での活用状況を学ぶことのできる機会を提供した。

開催期日 ①ドローン操縦体験会 令和5年4月1日（土）・2日（日）

②ドローンサッカー大会 令和5年8月12日（土）・13日（日）

参加者数 ①ドローン操縦体験会 207人

②ドローンサッカー大会 191人

#### ③ 企画展「もぐもぐ探検隊～“くち”から“おしり”まで～」（新規事業）

夏休み期間中の企画展の一つとして、「ヒトの消化器官」をテーマに、段ボールで作られた身体の中を疑似的に体験する展示を行い、子どもから大人まで楽しんでいただいた。また、SNS映えする記念撮影スポットを設け、来館記念写真を撮る機会も提供した。

開催期日 令和5年7月22日（土）～8月31日（木）

開催場所 多目的ホール

参加者数 3,145人（7月分）/12,239人（8月分） 合計 15,384人

#### ④ 企画展「星と海～太平洋に伝わる航海術～展」（新規事業）

太平洋に伝わる星を使った航海術について、解説パネルや展示物を展示して紹介した。なお、展示物は明石市立天文科学館や国立民族学博物館などから借用して展示を行った。

また期間中には、クイズを交えたプラネタリウム投映「星空マスター」や関連番組「Wayfinders Hawaiiへ続く星と海」の投映やサイエンストークなどの関連イベントも行った。

開催期日 令和5年7月22日（土）～8月24日（木）

開催場所 1階展示室内

来場者数 28,165人

サイエンストーク参加者数 6人

プラネタリウム特別投映来場者数 163人

#### ⑤ 4D－VR新番組「バーチャル恐竜パニック」（新規事業）

科学技術の最先端である4D-VRの新番組として、森に遊びに来た来館者が恐竜に遭遇し、恐竜の世界を疑似体験できる機会を提供した。

公開日 令和5年4月29日（土）～

## ⑥ トイレ美術館

館内トイレの壁面を活用して、職員が撮影した県内の空や天体写真を展示し、環境美化と癒しの空間づくりを行った。

開催期日 令和5年4月1日（土）～令和6年3月31日（日）

開催場所 館内トイレ内

## ⑦ こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所等を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。その後、プラネタリウム投映を観覧した。最後に、当館で用意したミニこいのぼりを園児にプレゼントした。

開催期日 令和5年4月7日（金）

参加者数 計 27人

## ⑧ 「科学と遊ぼう！こどもの日」

こどもの日にちなみ、中学生以下の入館料を無料とした。また、エンジョイサイエンスショー「しゃぼん玉で遊ぼう」を実施した。

開催期日 令和5年5月5日（金・祝）

来場者数 計 1, 959人

## ⑨ 第64回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選4作品を、1階展示室で上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

開催期日 令和5年7月22日（土）～8月27日（日）

入場者数 延べ 30, 660人

## ⑩ スペシャルサイエンスショー

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画し、図形や空気の熱膨張をテーマにしたサイエンスショーを開催した。人気のショーであり、本年度は4回実施した。

開催期日 ①令和5年5月4日（木・祝） ②令和5年6月18日（日）

③令和6年1月8日（月・祝） ④令和6年2月23日（金・祝）

入場者数 ①289人 ②167人 ③172人 ④240人 計868人

## ⑪ 南極クラス

南極で実際に生活した越冬隊員（堀川秀昭 氏）による講話を通じて、南極の生活や自然環境についての関心を高め、地球環境を学ぶ機会を設けると共に、越冬隊員が実際に南極で着用していた防寒着や、実際の生活の様子をVTRの視聴を通して、疑似体験的に学べるようにした。

開催期日 令和5年7月2日（日）

入場者数 123人

⑫ 青少年のための科学の祭典 2023 宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる 12 の実験ブースを出展し、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学及び科学技術に対する関心を高める活動を実施した。

開催期日 令和 5 年 8 月 5 日（土）～6 日（日）

参加者数 5, 561 人

⑬ 教員のための博物館の日

教職員や大学の教育学部生、博物館関係者を対象に博学連携を目的とし、県立西都原考古博物館、大淀川学習館、生目の杜遊古館と共同し、ワークショップを宮崎科学技術館および大淀川学習館で行った。

開催期日 令和 5 年 8 月 3 日（木）

参加者数 31 名

⑭ JSC フェスティバル

敬老の日までの 3 日間、活動パネル展示や JSC による超低温をテーマにした実験ショーや、ベンハムのこまなどの工作教室を実施した。

開催期日 令和 5 年 9 月 16 日（土）～18 日（月・祝）

参加者数 計 682 人

⑮ 敬老の日無料開放日

敬老の日にちなみ、高齢者（65 歳以上）の入館料を無料とした。

開催期日 令和 5 年 9 月 18 日（月・祝）

来場者数 計 1, 050 人

⑯ 名月展

中秋の名月に合わせて、月の姿の魅力や、最新の観測で解明しつつある月の話題についての写真やパネルを展示した。すでに実施した企画展等のパネルや、映像を活用し、月の話題に特化した企画展を実施した。

開催期日 令和 5 年 9 月 23 日（土・祝）～10 月 29 日（日）

内 容 月探査をテーマにしたパネル展

参加者数 計 11, 780 人

⑰ AM/FM ラジオ組み立て教室（新規事業）

日本無線株式会社の講師による AM/FM ラジオの組み立て教室を開催した。

開催期日 令和 5 年 11 月 4 日（土）

入場者数 延べ 52 人

⑲ 1 日こども館長（事務局経営戦略課事業）

科学及び科学技術に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和 5 年 11 月 26 日（日） 10:00～15:00

参加者数 5 人

## ⑯ 令和5年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした84の絵画作品を展示した。小・中学生から183点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 令和5年11月18日（土）～12月10日（日）

表彰式 令和5年12月10日（日）

入場者数 延べ 1,652人（内51人は表彰式出席者）

## ⑰ トワイライトミュージアム

イギリス発祥の「クリスマスレクチャー」を参考に、開館時間を延長してトワイライトミュージアムを開催した。“科学をクリスマスプレゼント”をコンセプトに、館内展示物を分かりやすく解説したり、工作教室を行ったり、いつもとはちょっと違った科学館を来館者に届けた。

開催期日 令和5年12月23日（土）

入場者数 延べ 484人

## ㉑ Starry Magic Show

クリスマスにちなんでクリスマスプレゼントとして「星空とマジックの融合」をテーマに、プロマジシャン 才藤大芽 氏を招聘し、プラネタリウムでのマジックショーを開催した。

開催期日 令和5年12月23日（土）・24日（日）

入場者数 延べ 452人

## ㉒ アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地活性化の取組を支援した。

### ○ ちよこっと工作（アウトリーチ）

開催期日 ①令和5年7月25日（火） 加納小学校

②令和5年8月24日（木） 生目地区交流センター

参加者数 ①加納小学校 小人 58人、大人 33人 計 91人

②生目地区交流センター 小人 19人、大人 12人 計 31人

### ○若草通り「街市」

開催期日 令和5年4月22日（土）、9月23日（土・祝）、11月25日（土）  
令和6年3月23日（土）

内 容 「ダジック・アース」「SORA-Q操縦体験会」など

参加者数 4月 110人、9月 56人、11月 240人、

3月 150人 総計 556人

### ○未来みやざき子育て応援フェスティバル2023

開催期日 令和5年11月18日（土）・19日（日） 午前10時～午後4時

場 所 宮交シティ3階 紫陽花ホール

内 容 「タネの模型作成」

参加者数 計 418人

## ○ガス展

開催期日 令和5年11月3日（金・祝）～5日（日） 午前10時～午後4時  
場所 宮崎中央公園メインモール  
内容 「ブンブンごま」・「ギーギーぜみ」  
参加者数 計 842人

## ㉓ インターンシップ、職場体験、学芸員資格取得実習

中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップ、及び大学生等の学芸員資格取得実習の受入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。都城工業高等専門学校3名3日間、大原簿記公務員専門学校2名5日間、県立宮崎工業高等学校3名3日間、県立妻高等学校3名3日間、市立大宮中学校4名3日間、市立宮崎東中学校4名2日間、市立赤江東中学校3名2日間を受け入れ、キャリア教育、サイエンス事業補助、プラネタリウム視聴等の体験を行った。

なお、学芸員資格取得実習のため、宮崎大学工学部1名を8月4日（金）～9日（水）の期間中に5日間受け入れた。

参加者数 延べ 23人

## ㉔ 宮崎市教育委員会教職員初任者研修

宮崎市に勤務する小・中学校の教職員初任者に対して、教育施設を活用した授業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和5年11月14日（火）・16日（木）

参加者数 33人

## ㉕ 宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

学校以外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に、地域の科学館におけるフィールドワークを実施し、施設の概要及び管理運営についての説明、展示物解説、プラネタリウム視聴を行った。

開催期日 令和5年7月2日（日）

参加者数 12人

## ㉖ 科学技術週間工作教室

科学技術週間に合わせて、工作教室を実施した。多くの親子がスカイスクリューの製作を行い、製作後は作ったスカイスクリューを楽しそうに飛ばしていた。

開催期日 令和5年4月22日（土）・23日（日）

参加者数 計 170人

## ㉗ 授業づくりサポート事業（事務局経営戦略課事業）

学習学校教育支援の一環として、宮崎市・国富町・綾町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくり全般のサポートを行った。また、各学校における理科教育の向上のために、各自の課題に応じた適切な支援を行った。

開催期日 令和5年12月19日（火）

開催場所 宮崎市立江平小学校 体育館

参加者数 132人

(2) 共催事業 ( ) は主催者名

- |  |                                |                         |
|--|--------------------------------|-------------------------|
| ① 航空教室<br>(航空大学校)                        | 実施日 令和5年7月1日(土)<br>令和6年2月3日(土) | 参加者数 59名<br>26名         |
| ② 宮崎地区サイエンスコンクール展<br>(みやざき科学技術人材育成推進委員会) | 実施日 令和5年9月2日(土)～9月10日(日)       | 入場者数 延べ 1,107人          |
| ③ 県学校発明くふう展<br>(宮崎県発明協会)                 | 実施日 令和5年10月13日(金)～15日(日)       | 入場者数 延べ 506人            |
| ④ 宮崎市中学校毛筆展<br>(宮崎市中学校書写部会)              | 実施日 令和6年1月17日(水)～1月21日(日)      | 入場者数 延べ 1,068人          |
| ⑤ コズミックカレッジ<br>(宮崎ハマユウ会)                 | 実施日 令和5年11月11日(土)              | 入場者数 31人                |
| ⑥ 命の科学フェア                                | 実施日 令和5年7月9日(日)                | 入場者数 大人55名、小人51名 合計106名 |
| ⑦ 集まれ！宮崎アマテラスガールズプロジェクト キャリア講演会          | 実施日 令和6年2月24日(土)               | 入場者数 50名                |

## 宮崎市歴史資料館

### 【宮崎市生目の杜遊古館】

#### 1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市生目の杜遊古館の管理運営業務について展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

#### (1) 利用状況

開館日数	307日
入館者数	27,912人
1日平均入館者数	91人

#### (2) 利用内訳

##### ① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	6,868人 (24.6%)
大人	21,044人 (75.4%)
合計	27,912人

##### ② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	21,248人 (76.1%)
団体	6,664人 (23.9%)
合計	27,912人

##### ③ 県内団体利用内訳

###### ・広域圏内

幼稚園・保育所等	510人 (8.1%)
小学校	1,285人 (20.3%)
中学校	97人 (1.5%)
一般	4,443人 (70.1%)
合計	6,335人

###### ・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	83人 (53.5%)
中学校	0人 (0%)
一般	72人 (46.5%)
合計	155人

##### ④ 県外団体利用内訳

一般	174人 (100%)
小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
合計	174人

## ⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	2	15	8.6
四国	0	0	0
近畿	2	26	14.9
中国	0	0	0
中部	2	27	15.5
関東	6	106	61.0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	12	174	100

## ⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	2	15	100
沖縄	0	0	0
合計	2	15	100

## 2 常設展示事業

展示室1では旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では国指定重要文化財である「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介した。

## 3 企画展示事業

展示室3では、下記のとおり企画展示を行った。

### (1) 企画展「いろんなカタチ！」

宮崎市に関する歴史・考古・民俗資料のうち、軸物や和装本、出土遺物、民具などを一堂に展示し、その資料の役割や「カタチ」の持つ意味について解説した。

開催期日 令和5年10月21日（土）～12月3日（日）

入場者数 延べ 4,404人

### (2) 企画展「嗜好品の世界」

お茶やお酒など長年愛されてきた嗜好品について展示・解説し、歴史や民俗、文化に親しむ機会とし、興味・関心を高める場を提供した。

開催期日 令和6年1月20日（土）～3月3日（日）

入場者数 延べ 3,529人

## 4 歴史文化振興・教育普及事業

### (1) 講 座

#### ①歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、外部専門家を講師として招いたほか、当館館長による講座も実施した。

実施回数 10回

内容(演題) 「記紀万葉にみる星の神話」、「動物園と野生動物その1」、「海から見た宮崎の幕末」、「宮崎の歴史的建造物探訪+α」、「文化財ニホヘト～こぼれ話・保護と活用編」、「保護したい植物と駆除したい植物」、「九州の関ヶ原 宮崎城の攻防」、「歴史を経済とデータから推理する－明治・大正・昭和の資料・地図データからみた経済・産業－」、「宮崎の戦

争その3」、「江戸の異文化交流～やって来た異邦人・海を渡った日本人～」

参加者数 延べ 420人

### ②埋蔵文化財関連講座（みんなの考古学）

宮崎市内の遺跡や遺物に関する講座として、宮崎市教育委員会文化財課の専門職員による講話を行った。

実施回数 5回

内容(演題) 知られざるヨロイが語る古墳時代宮崎市のレキシ  
縄文時代研究の最前線 縄文時代はこう変わった  
遺跡の立地と地形からみたみやざきの弥生社会  
宮崎の出土銭貨 おカネの流通状況  
科学のチカラで解明!?遺跡からわかる宮崎の食生活

参加者数 延べ 197人

### ③古文書講座（初級編、中級編）

宮崎市市史編さん室の専門職員を講師に迎え、令和4年度に引き続き内容を初級編と中級編に分け、古文書の解説演習を行った。

(初級編) 実施回数 3回 テキスト『古文書講座（初級編）』ほか  
参加者数 延べ 94人

(中級編) 実施回数 5回 テキスト『高岡郷士族系図』ほか  
参加者数 延べ 160人

## （2）歴史文化体験（わくわく学芸員講座）

学芸員による歴史や文化にまつわる講座やモノ作り、歴史探訪を実施した。

実施回数 4回（6月、9月、10月、3月）

実施内容 「仏像まめちしき入門（講話）」、「布兜づくり」、「竹編み額づくり」  
「国富町の史跡、文化財巡り」

参加者数 延べ 35人

## （3）体験学習・個人体験プログラム

「古代織りでコースターづくり」等の古代のモノ作り体験や昔の人々の暮らしと関連した「ミニ門松づくり」等の製作体験を行うもので、子どもと保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

体験学習 実施回数 18回

実施内容 石臼できな粉づくり・革細工コースターづくり・土器づくり・昔の生活から学ぶアウトドア活動・古代織りでコースターづくり・古代の鏡づくり・藍染体験・古墳ウォークラリーとカレー炊飯・けん玉づくり・リースづくり・古代米で餅つき・ミニ門松づくり・竹馬づくり・カラー勾玉づくり・古代パンづくり・古代米を使ったぜんざいづくり・ハンカチの草木染め

参加者数 延べ 472人

個人体験 実施回数 80回（4～3月） 勾玉・はにわ・土笛づくり・草木染め

参加者数 延べ 801人

#### (4) 学校教育等との連携

学校教育や幼児教育への支援として、勾玉づくりや土笛づくり、史跡ウォークラリーといった体験活動や展示室・生目古墳群見学などのプログラムを実施した。利用の目的としては、社会科見学や遠足のほか、宮崎市教育委員会が主催する支援教室があった。

小・中学校・高等学校	来館校数	16校
	来館者数	延べ 1,646人
幼稚園・保育所等	来館園数	13園
	来館者数	延べ 510人

この他、生涯学習支援として、学校や地域住民向けの出前講座等を9回行った。

### 5 イベント事業

#### (1) こどもの日特別企画

ゴールデンウィーク期間中の5月5日（金・祝）に子どもを対象としたイベントとして、竹で小物づくりや紙かぶとづくり、展示室クイズラリー、昔の遊び体験（竹馬・竹ぼっくり・竹とんぼ）を開催した。

参加者数	大人	187人
	子ども	101人
	計	288人

#### (2) 遊古館デイキャンプ

日中から日没後にかけて、宿泊を伴わないデイキャンプを2回実施した。火おこし体験や飯盒炊飯とともに、1回目は大淀川学習館職員の指導のもとでの生き物採集、2回目は宮崎科学技術館職員による星空観望会を行った。

【1回目】令和5年7月29日（土）	14：00～21：00	28人
【2回目】令和6年1月6日（土）	15：00～20：00	23人

#### (3) レッツ！タイムワープ in 遊古館

小学4～6年生を対象とした連続講座として、農耕等の生産活動や歴史・民俗学など、昔の人々の生き方を辿りながら、SDGsの理念に沿って、体験し学ぶプログラムを実施した。

実施回数	5回
参加者数	延べ 107人

#### (4) 歴史3館シールラリー

宮崎市歴史資料館3館（生目の杜遊古館・佐土原歴史資料館・天ヶ城歴史民俗資料館）を広く周知し相互利用の促進を図るため、3館を巡り、展示室に隠されたシールを集めて合言葉を作るシールラリーを開催した。

開催期間	令和6年1月6日（土）～2月25日（日）
参加者数	150人

(5) みやざき生目古墳まつり応援事業(生目の杜遊古館 de 歴史遊び with 生目古墳群 de ピクニック)

宮崎市文化財課主催の「～祝国指定80周年～生目古墳群 de ピクニック～」に合わせ、勾玉づくりやシールラリー、竹馬等の昔の遊び体験を史跡公園会場ブースや遊古館展示室等で実施した。

開催期日 令和5年11月18日（土）

参加者数 839人

(6) 一日こども館長（事務局経営戦略課事業）

文化財や歴史に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に一日こども館長を委嘱し、カレー炊飯の体験や古墳見学を行った。

開催日時 令和5年10月9日（月・祝）

参加者数 5人

(7) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

未就学児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを実施し、地元アーティスト等による生演奏を通じ、施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催日時 令和5年10月26日（木）

演奏者 えとヤンヤンヤン（歌・ピアノ・ドラム）

参加者数 138人

## 6 資料収集、調査・研究

市民の資料に関する照会・相談を受けたほか、「令和5年度宮崎市歴史資料館 研究紀要」を刊行予定。

## 【宮崎市佐土原歴史資料館】

### 1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

#### (1) 利用状況

開館日数	142日
入館者数	9,416人
1日平均入館者数	66人

#### (2) 利用内訳

##### ①入館者数（小人・大人）内訳

小人	2,014人 (21.4%)
大人	7,402人 (78.6%)
合計	9,416人

##### ②入館者数（個人・団体）内訳

個人	8,674人 (92.1%)
団体	742人 (7.9%)
合計	9,416人

##### ③県内団体利用内訳

###### ・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	273人 (51.1%)
中学校	0人 (0%)
一般	261人 (48.9%)
合計	534人

###### ・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
一般	75人 (100%)
合計	75人

##### ④ 県外団体利用内訳

一般	133人 (100%)
小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
合計	133人

#### ⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	1	16	12.0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	4	84	63.2
東北	1	33	24.8
北海道	0	0	0
合計	6	133	100

#### ⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	1	16	100
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	1	16	100

## 2 常設展示事業

### (1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに城館を再現した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元に伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

### (2) 商家資料館「旧阪本家」

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」（明治 38（1905）年築、重層入母屋造。市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1階に机や錢箱などを配した帳場を再現し、2階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

## 3 企画展示事業

### (1) 企画展「鶴松館 30年のあゆみ」

鶴松館が開館 30周年を迎えたことから、鶴松館建設前から現在に至るまでの様子をパネルで紹介した。

開催期日 令和 5 年 5 月 15 日（月）～6 月 14 日（水）  
入場者数 延べ 2, 679 人

### (2) 企画展「出張！2館合同収蔵品展」

佐土原歴史資料館と天ヶ城歴史民俗資料館がともに開館 30周年を迎えたことを記念し、合同の収蔵品展を開催した。内容は、両館が収蔵する歴史・民俗資料の中から、佐土原と高岡の藩政時代の様子や両地の関わり、郷土の先人等に関する資料等の展示・紹介を行い、互いの館で収蔵資料の出張展示を行った。

開催期日 令和 6 年 1 月 27 日（土）～2 月 25 日（日）  
入場者数 延べ 1, 592 人

## 4 歴史文化振興・教育普及事業

### (1) 体験学習

子ども（小学生以上）と保護者等を対象に、城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作や伝統文化を体験した。また、佐土原城等の史跡からピックアップした77カ所の一部を巡る体験学習を実施した。

実施回数 8回

内 容 「お城で茶道体験」、「お城で生け花体験」、「うずら車の絵付け体験」、「お城でコンサート」、「チャレンジ77佐土原旧跡巡り」、「佐土原人形の絵付け体験」

参加者数 延べ 151人

### (2) 学校教育等との連携

総合的な学習等による学校の団体利用のほか、児童や教職員を対象とした出前事業を実施した。

#### ① 団体利用

小学校 来館校数 2校

来館者数 延べ 104人

#### ② 出前授業・講座

参加数 4件（うち学校は3校。その他は地域づくり協議会）

参加者数 延べ 314人

## 5 イベント事業

### (1) 神代独楽回し大会

佐土原町域に江戸時代から伝わる郷土玩具で、下級武士の内職として作られ続け、端午の節句の贈り物にもなった神代独楽を使ったこま回し大会を実施した。

開催期日 令和5年7月2日（日）

参加者数 10人

### (2) 共催事業

佐土原小学校区地域づくり協議会と共に鶴松館裏手にある花しょうぶ園をメイン会場として、町おこしを目的とした花しょうぶまつりを実施した。佐土原歴史資料館では、野点のほか大正琴や演歌などのステージが行われた。

開催期日 令和5年6月3日（土）～4日（日）

参加者数 1,669人

## 6 資料収集、調査・研究

市民より軸物・文書等計376点の資料寄贈を受けた。また、資料収集に関連して資料調査（聞き取り、写真撮影等）を実施し、記録作業を行った。

## 【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

### 1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

#### (1) 利用状況

開館日数	139日
入館者数	12,589人
1日平均入館者数	91人

#### (2) 利用内訳

##### ① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	5,021人 (39.9%)
大人	7,568人 (60.1%)
合計	12,589人

##### ② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	10,326人 (82.0%)
団体	2,263人 (18.0%)
合計	12,589人

##### ③ 県内団体利用内訳

###### ・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人 ( 0%)
小学校	2,143人 (97.2%)
中学校	0人 ( 0%)
一般	61人 ( 2.8%)
合計	2,204人

###### ・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人 ( 0%)
小学校	0人 ( 0%)
中学校	0人 ( 0%)
一般	44人 (100%)
合計	44人

##### ④ 県外団体利用内訳

小学校	0人 ( 0%)
中学校	0人 ( 0%)
一般	15人 (100%)
合計	15人

##### ⑤ 県外地方等別団体利用内訳

地域 国	団体 数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
韓国	1	15	100
合計	1	15	100

##### ⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

## 2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の歴史・文化・民俗を映像や民俗資料で紹介している。また薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを甲冑や古文書などの歴史資料と、当時の町並みをイメージして作られた模型とともに解説している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

## 3 企画展示事業

企画展「出張！2館合同収蔵品展」

天ヶ城歴史民俗資料館と佐土原歴史資料館がともに開館30周年を迎えたことを記念し、合同の収蔵品展を開催した。内容は、両館が収蔵する歴史・民俗資料の中から、高岡と佐土原の藩政時代の様子や両地の関わり、郷土の先人等に関する資料等の展示・紹介を行い、互いの館で収蔵資料の出張展示を行った。

開催期日 令和6年3月15日（金）～4月14日（日）

入場者数 延べ 2,585人（令和5年度入場者数）

## 4 歴史文化振興・教育普及事業

### （1）体験学習

子どもと保護者、一般を対象として、水鉄砲や凧などの昔ながらのおもちゃづくりやおかしづくり、二見家住宅（宮崎県指定有形文化財）を活用した体験学習等を実施した。

実施回数 8回

内 容 お菓子づくり・弓矢づくり・水鉄砲づくり・夏休み图画工作  
 凧づくり・ミニ門松づくり・かまど炊飯体験

参加者数 延べ 110人

## (2) 学校教育等との連携

総合的な学習等による学校の団体利用があった。

小学校 来館校数 1校

来館者数 132人

## (3) 授業支援事業「昔の道具と人びとのくらし」

当館所蔵の民俗資料（昔の道具）を活用し、小学校の社会科における「市のようすとくらしのうつりかわり」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対象 宮崎市、国富町、綾町の小学校

実施校数 24校

参加者数 延べ 2,011人

## 5 イベント事業

### (1) 高岡歴史かるたで遊ぼう

高岡町域の寺社仏閣・文化財・史跡・先人・物産といった事柄を取り扱った高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらかるた遊びや大会を行った。

開催期日 第1回 令和5年7月2日（日）

第2回 9月3日（日）

第3回 10月8日（日）

大會 11月5日（日）

講師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏ほか

参加人数 延べ 52人

### (2) 高岡麓のまちなみを歩こう

歴史的な建造物や文化財が多くみられる高岡町麓地区のまちなみを散策し、故郷高岡に対する理解を深め、郷土愛を高める機会とした。

開催期日 令和5年10月15日（日）

参加者数 16人

## 6 資料収集、調査・研究

令和5年度は絵図1件の寄贈があった。

# 大淀川学習館

## 1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

### (1) 利用状況

開館日数	307日
入館者数	105,271人
1日平均入館者数	343人

### (2) 利用内訳

#### ① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	58,023人 (55.1%)
大人	47,248人 (44.9%)
合計	105,271人

#### ② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	94,780人 (90.0%)
団体	10,491人 (10.0%)
合計	105,271人

#### ③ 県内団体利用内訳

##### ・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所等	3,262人 (57.9%)
小学校	2,278人 (40.5%)
中学校	3人 (0.1%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	52人 (0.9%)
特別支援学校	31人 (0.6%)
合計	5,626人

##### ・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所等	371人 (28.0%)
小学校	920人 (69.6%)
中学校	0人 (0.0%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	32人 (2.4%)
特別支援学校	0人 (0.0%)
合計	1,323人

##### ・ 一般団体

医療・福祉	3,002人 (84.8%)
教育	0人 (0.0%)
その他	540人 (15.2%)
合計	3,542人

#### ④ 県外団体利用内訳

小人	87人
大人	68人
合計	155人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	6	116	74.8
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	1	13	8.4
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
海外	1	26	16.8
合計	8	155	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	22	19.0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	2	16	13.8
大分	0	0	0
鹿児島	3	78	67.2
沖縄	0	0	0
合計	6	116	100.0

## 2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、解説パネル展示とともに、顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行っている。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱の変更に伴い、パソコンや顕微鏡などの直接触れる展示物を全面開放し、顕微鏡カメラについては更新を行った。

(2) 生体展示

① 自然楽習園

自然楽習園では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、令和5年度は、年間4,702頭を放蝶することで、常時30～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。その中で、館内で飼育する生体の排泄物を利用して土壤改良を行う中で蜜源植物や食草の生育を促したり、廃棄物を少なくする飼育方法を導入したりするなど、環境に配慮した飼育環境を構築しつつ、チョウの生育に適した環境構築に努めた。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。日本三大怪魚のひとつであるアカメや、大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広く揃え、子どもの興味や目線の高さ、季節等に応じて、随時、配置換えを行った。また、小型水槽については、子ども用と大人用に解説を分けて表示を行い、学びが深まる工夫を行った。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。宮崎市環境政策課や宮崎市内の各地区ホタル保存会と連携・協力を図りながら、ホタルビオトープ水槽等を活用して館内羽化率向上に取り組んだ。令和5年度は、温度管理に注力し、昨年度確立した飼育環境の安定化に取り組んだ。

### (3) 企画展示

- ① 新規企画展 「つかまえて、育ててみよう！身近な生き物展」  
内 容 身近な生き物と触れ合うよさを感じたり、自然や環境保全について考えたりするきっかけとすることを目的に、生き物の採集や飼育方法について、解説パネルとともに生体展示を行った。  
開催期日 令和5年4月25日（火）～6月4日（日）  
入場者数 延べ 14, 086人
- ② 企画展 「カラー魚拓への誘い」  
内 容 サカナの特徴に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、サカナの色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓61点を、地元愛好家の協力を得て展示した。  
開催期日 令和5年6月13日（火）～7月9日（日）  
入場者数 延べ 8, 026人
- ③ 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」  
内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、例年好評な大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシに関する企画展を実施した。その中で、日頃から生体の採集や飼育に関する問い合わせが多いことから、令和5年度は成虫の生体展示だけでなく、採集や飼育のポイントを解説したパネルや採集・飼育に必要な道具、サナギとその飼育環境についての模型を展示した。  
開催期日 令和5年7月15日（土）～8月27日（日）  
入場者数 延べ 30, 642人
- ④ 企画展 「よく見てみよう！ちょっとひりこわい生き物＆うんち展」  
内 容 生命の存在価値や命の尊さについて考える契機とするため、ヘビやゴキブリ、クモなど、一般的に嫌悪されたり、怖がられたりする生体と生物の排泄物や排泄物についての解説パネルの展示を行った。  
開催期日 令和5年9月16日（土）～10月29日（日）  
入場者数 延べ 12, 319人
- ⑤ 企画展 「身近な生き物と環境展」  
内 容 生態系への理解を促進するため、飼育できる身近な生き物（金魚・メダカ・カメ）の紹介を行った。また、SDGsや自然環境保護への啓発を目的として、コオロギパウダー入りクッキー やタガメエキス入りサイダー、乾燥スズメバチなどの昆虫食や廃材水槽の展示、解説を行った。企画展と連動して昆虫食のカプセルトイの販売も行った。  
開催期日 令和5年11月3日（金・祝）～12月10日（日）  
入場者数 延べ 6, 647人

- ⑥ 企画展 「変身しよう！みんなの生き物アート展」  
内 容 乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけを作ることや、SNS の普及によるフォトスポット需要が高まっていることを受け、自然を感じつつ、写真撮影を通して文化活動にも触れることができるよう、チョウやトンボになりきる写真スポットや飛び出るアカメの写真スポット、不思議な水槽、影絵アートなど合わせて 5か所の写真スポットを設定した。  
開催期日 令和 6 年 1 月 4 日（木）～1 月 28 日（日）  
入場者数 延べ 8,093 人
- ⑦ 企画展 「春の芽吹きを感じよう！春の彩り展」  
内 容 春休み期間中の子どもたちが、春に芽吹く植物等を観察する機会を設けるために、菜の花やハマダイコンなどの野草やアーモンド、藤、チューリップなどの園芸種の展示を行った。  
開催期日 令和 6 年 2 月 10 日（土）～4 月 7 日（日）  
入場者数 延べ 11,888 人 ※3 月 31 日（日）までの集計

#### （4）作品募集と展示

- ① 作品展 第 29 回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展  
内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品 21 点を展示した。  
応募数 436 点  
開催期日 令和 5 年 10 月 1 日（日）～10 月 29 日（日）  
入場者数 延べ 6,475 人

#### （5）川のシアター

- 内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、8 本の番組（大淀川の自然を訪ねて、大淀川の水と生き物たち、大淀川の生き立ちと生き物、母なる川～大淀川～、大淀川水辺のおさんぽ、大淀川の虫たち、ダイビング in 南郷、日向灘の海）を立体ハイビジョンにて上映した。  
上映回数 842 回  
観覧人数 延べ 13,455 人
- ※ 令和 5 年度は、上映の中止期間がなく、団体での利用が大幅に増えたことにより、上映回数、観覧人数ともに令和 4 年度に比べて大きく増加した。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱が変更になったことに伴い、上映時の定員を 50 人に戻した。
- 令和 4 年度（上映回数：444 回 観覧人数：延べ 5,157 人）  
令和 3 年度（上映回数：381 回 観覧人数：延べ 4,961 人）

## (6) 里山の楽校

古来より、人が里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にする心を育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、「ミツバチはかせになろう！」や「生き物の集まる植物を植えよう！」、「目指せ！ムシはかせ」等の教室事業の会場として活用を図った。また、第2食草園では、自然楽習園を維持するために必要な植物を育てるとともに、生涯学習支援事業である「芋ほり体験」も実施した。

### 3 学校対応事業

小学生を対象に、小学校3年生で学習するチョウの生態について、観察や講話をを行うプログラムや館で飼育する生物の見学や解説を行うプログラムを実施した。また、小学校で理科を担当する先生を対象に、授業で取り上げられるチョウやメダカの飼育方法や生態についての講義・演習を実施した。小学生を対象とした見学プログラムは、主に遠足や校外学習においての利用であった。

#### (1) 授業支援

対 象	小学校 19校
実施回数	19回
参加者数	延べ 1,466人
内 容	チョウやホタルの生態について、間近で見て触れられるという本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

#### (2) 指導者支援

対 象	小・中学校教諭等
実施回数	3回
参加者数	延べ 26人
内 容	チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、館独自のテキストを用いた講義や自然楽習園での演習を行った。

### 4 団体対応事業

#### (1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対 象	子ども会・PTA・学童保育等
実施回数	0回
参加者数	延べ 0人
内 容	展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を準備した。館内での実施を希望する団体もあったが、実施できる部屋の収容可能人数を超えていたため、出前授業として実施した。

#### (2) 出前授業等

対 象	児童館や地域づくり協議会等
実施回数	13回
参加者数	延べ 550人
内 容	身の回りにいる生きものを観察したり、その種類を調べたりする野外活動や生き物の講座を行った。

## 5 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

### (1) 環境教室

対 象	小学生以上
実施回数	7回（5月に4回、7月に2回、10月に1回）
参加者数	延べ 148人
内 容	「ホタル環境教室」を1回、「川の生き物で水質を調べよう！」を計4回、「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を1回、「水の生き物のすむ環境を作つてみよう」を1回計画し、計画通りに実施することができた。

### (2) 飼育・観察教室

対 象	小学生以上
実施回数	13回
参加者数	延べ 200人
内 容	「目指せ！ムシはかせ」を7回、「初めてのカブトムシ・クワガタムシ飼育教室」を3回、「メダカの飼育教室」を3回実施した。

### (3) 活動教室

対 象	小学生以上
実施回数	6回
参加者数	延べ 63人
内 容	「チョウが集まる植物を植えよう！」を2回、「水を浄化してみよう！」を2回、「ハーブティーを楽しもう！」、「シイタケの種駒打ちをしよう！」を各1回行った。

### (4) ものづくり教室

対 象	小学生以上
実施回数	5回
参加者数	延べ 100人
内 容	「昆虫標本を作ろう！」、「カラー魚拓を制作しよう！」、「植物標本を作ろう！」、「野鳥の巣箱を作ろう！」、「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」を行った。

### (5) ミニ講座

対 象	全来館者
実施回数	26回
参加者数	延べ 407人
内 容	館内で展示・飼育している動植物について、簡単な説明を行うとともに、実際に生体に触れる体験を実施した。

### (6) 園児教室

対 象	幼稚園や保育所等の園児
実施回数	20回
参加者数	延べ 893人
内 容	動植物の話を聞き、実際に生き物を見たり、工作活動をしたりした。

## 6 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として事業を行った。

### (1) 季節のイベント

対 象	全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数	4回（5月に1回、7月に2回、3月に1回）
参加者数	延べ 216人
内 容	「カブトムシの幼虫を育てよう！」、「カブトムシの木登り大会」、「クワガタムシのすもう大会」、「ひなまつりコンサート in 大淀川学習館」を実施した。年度当初は12月に「クリスマスコンサート in 大淀川学習館」を計画していたが、インフルエンザの流行に伴い、開催時期を3月に変更し、「ひなまつりコンサート」を実施した。

### (2) わくわく工作

対 象	全来館者
実施回数	16回
参加者数	延べ 292人
内 容	大淀川流域の自然や文化をテーマにして、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第1土曜日を基本として月に1回ずつ実施した。その中で、七夕やハロウィン、夏休みや秋休みの前後には回数を増やして実施した。 (工作内容の例：「ミニ鯉のぼりを作ろう！」、「かぶと飾りを作ろう！」、「切り紙で昆虫標本を作ろう！」、「七夕飾りを作ろう」、「貝がらで工作しよう！」、「風船のハロウィンおばけを作ろう！」等)

### (3) 講演会

対 象	全来館者
実施回数	1回
参加者数	延べ 14人
内 容	令和5年度初めにミヤザキサンショウウオの新種記載が話題となったことから、新種記載のメンバーの1人であった末吉豊文氏（生目の杜遊古館学習指導員）を講師として招き、講演会を実施した。

### (4) どきどき体験

対 象	全来館者
実施回数	4回
参加者数	延べ 100人
内 容	日本けん玉協会宮崎県支部から講師を招き、けん玉の基礎技術から応用技まで紹介するなど、日本古来の文化であるけん玉遊びを体験するイベントを実施した。

### (5) 生き物とのふれあい&読み聞かせ

対 象	全来館者
実施回数	12回
参加者数	延べ 106人
内 容	幼児向けの絵本の読み聞かせを行うとともに、絵本に登場する生き物に実際に触れる体験を実施した。

## 7 その他の事業

### (1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育所等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応えて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

#### 来館学校

幼稚園・保育所等	142団体	延べ来館者	3,633人
小学校	46団体	延べ来館者	2,982人
中学校	2団体	延べ来館者	7人
小・中学校	3団体	延べ来館者	216人
高等学校	1団体	延べ来館者	3人
特別支援学校・大学・短大	6団体	延べ来館者	115人
合 計	200団体	延べ来館者	6,956人

### (2) 子どものための音乐会（事務局経営戦略課事業）

各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とするために、乳幼児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを、地元アーティスト等による生演奏により、2階レクチャーホールで実施した。

期 日 令和6年2月7日（水）

参加者数 125人

### (3) 1日子ども館長（事務局経営戦略課事業）

河川及びその周辺の自然等に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和5年12月2日（土） 小学生5名

### (4) 各種関係団体との連携 ( ) 内は団体等の名称

①自由研究にぴったり！浄水場見学 実施日 令和5年7月27日（木）

(宮崎市上下水道局：下北方浄水場) 入場者数 56人

②絵本の読み聞かせ音乐会 実施日 令和5年6月11日（日）

(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 83人

③ひなまつりコンサート 実施日 令和6年3月3日（日）

(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 81人

※クリスマスコンサートの中止による代替開催

④ふれあいもちつき大会 実施日 中止

(水源地団地自治会)

⑤カラー魚拓を制作しよう 実施日 令和5年7月2日（日）

(色彩魚拓画会) 入場者数 子ども6人、大人6人、計12人

⑥しいたけの種駒打ちをしよう 実施日 令和6年2月11日（日）

(宮崎中央森林組合) 入場者数 子ども12人、大人12人、計24人

⑦生涯学習支援事業芋ほり体験 実施日 令和5年10月25日（水）  
(下北方保育園) 入場者数 子ども20人、大人5人、計25人

#### （5）情報提供と広報活動

ICT（情報通信技術）を積極的に活用し、SNS（ブログ、フェイスブック）を用いた情報提供や広報活動を行った。また、ホームページを一部改良し、教室講座の内容を写真付きで紹介し、教室講座毎に申込ページを新設することで、申し込みの利便性の向上を図った。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」、宮崎市役所のYouTubeチャンネルと連動した「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に協力した。

## 宮崎市民プラザ

### 1 管理運営事業

令和5年度は、指定管理期間の最終年度にあたり、「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針に基づいて、施設の管理運営に努めた。

#### (1) 利用状況

開館日数	306日
入館者数	179,948人
1日平均入館者数	588人

#### (2) 利用内訳

・ 1階 オルブライトホール	52,299人 (利用率 87.9%)
・ 4階 ギャラリー	32,373人 (利用率 92.2%)
・ 4階 練習室①	12,324人 (利用率 87.4%)
・ 4階 練習室②	3,339人 (利用率 97.1%)
・ 4階 大会議室	14,847人 (利用率 93.5%)
・ 4階 中会議室	8,890人 (利用率 95.8%)
・ 4階 小会議室①	4,554人 (利用率 94.8%)
・ 4階 小会議室②	3,568人 (利用率 87.7%)
・ 4階 和室	3,729人 (利用率 87.7%)
・ 4階 学習室	5,033人 (利用率 81.9%)
・ 2階 プレイルーム／1階 授乳室	467人
・ 1階 喫茶コーナー	2,184人
・ 3階 宮崎市民活動センター	22,960人
・ 3階 各団体室	5,404人
・ ホール打合せ	19人
・ ギャラリー打合せ	120人
・ 窓口受付	7,615人
・ 視察者等	223人
合計 179,948人	

### 2 文化芸術企画事業

「市民文化の振興」「若い世代へのアプローチ」「文化芸術活動への支援」の3つの取組方針に基づいて、鑑賞型や創造・参加型、普及・育成型など様々な形で事業を展開し、文化芸術団体等との共催事業にも取り組んだ。

#### (1) 子どものための文化芸術体験プログラム（アウトリーチ事業）

子どもたちの文化芸術に対する関心を高めるとともに心豊かな感性を育むため、手影絵パフォーマンスの鑑賞会や「影」の特性について学ぶワークショップを実施した。

- ・日 時 令和5年6月13日（火）10：20～12：00
- ・実施校 宮崎市立西池小学校（対象：4年生児童146人）
- ・実演団体 劇団かかし座

#### （2）大人のバックステージ体験

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側を見学・体験することで、舞台機構や文化施設を身近に感じてもらうため、高校生以上を対象にバックステージツアーを実施した。

- ・日 時 令和5年6月24日（土）14：00～16：00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 16人
- ・協 力 松木秀文（ギター）

#### （3）子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

乳幼児に幅広いジャンルの生演奏に触れてもらいながら豊かな感性や情操を育てるため、子どもから大人まで馴染みのある童謡を中心に、ジャズアレンジのコンサートを実施した。

- ・日 時 令和5年7月20日（木）10：00開場 10：30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 香月保乃（歌・ユーフォニアム）、黒木奈津季（ピアノ）、坂元陽太（ベース）
- ・入 場 料 無料
- ・入場者数 246人（子ども113人、保護者133人）

#### （4）舞台さんと行く！夏休み！！バックステージ体験

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側を見学・体験することで、舞台機構や文化施設を身近に感じてもらうため、小学生親子を対象にバックステージツアーを実施した。

- ・日 時 令和5年8月6日（日）①10：00～12：00  
②14：00～16：00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 ①35人（子ども19人、保護者16人）  
②29人（子ども17人、保護者12人）
- ・協 力 鵬翔中学校合唱部（合唱）

#### （5）桂 歌春の落語教室（アウトリーチ事業）

本県出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流する機会を創出するとともに、古典芸能の落語を身近に感じてもらうため、桂歌春さんが小学校へ出向くアウトリーチを実施した。

- ・日 時 令和5年10月26日（木）①9：20～10：05  
②14：00～15：30
- ・実施校 ①宮崎市立住吉南小学校（対象：6年生児童103人）  
②宮崎市立那珂小学校（対象：5・6年生児童91人）
- ・講 師 桂 歌春（落語家）

#### (6) 市民プラザ寄席「一之輔・歌春二人会」

市民が気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めるため、本県出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースする寄席を実施した。

- ・日 時 令和5年11月5日（日）14：50開場 15：15開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 春風亭一之輔（落語）、桂 歌春（落語）、玉川太福（浪曲）、桂竹千代（落語）、玉川鈴（曲師）
- ・入 場 料 全席指定／前売3,000円
- ・入場者数 455人

#### (7) 1日子ども館長（事務局経営戦略課事業）

子どもたちの文化芸術に対する興味関心を高め、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に「市民プラザ寄席」での職場体験を実施した。

- ・日 時 令和5年11月5日（日）10：00～15：00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 4人（4年生児童）

#### (8) 声優朗読劇「アレーゼン～対決～」

若い世代へのアプローチとして、オリジナル脚本による人気声優の朗読と、チェンバロの生演奏による音楽朗読劇を実施した。

- ・日 時 令和5年12月17日（日）14：30開場 15：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 井上和彦（声優）、田丸篤志（声優）、山谷祥生（声優）、森永彩斗（声優）、中野振一郎（チェンバロ）
- ・入 場 料 全席指定（一般）／前売4,000円  
（学生）／前売2,000円
- ・入場者数 468人

#### (9) 声優体験ワークショップ

声優体験を通して若い世代の文化芸術に対する興味関心を高めるため、「声優朗読劇「アレーゼン」」のイベントとして、中学生以上を対象にプロの声優から直接指導を受ける朗読体験ワークショップを実施した。

- ・日 時 令和5年12月16日（土）15：00～16：30
- ・場 所 オルブライトホール
- ・講 師 井上和彦（声優）
- ・参 加 費 1,000円
- ・参加者数 50人

#### (10) 市民プラザコンサート THE FINAL～17年間ありがとう、そして未来へ～

市民が気軽に楽しめる趣向を凝らしたコンサートを通して音楽文化の振興を図るため、様々なジャンルのアーティスト5組によるコンサートを実施した。

- ・日 時 令和6年2月25日（日）16：00開場 16：30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 WAVE ISLANDS（レゲエ・スカバンド）、Anny Surprise（アコースティックデュオ）、にじいろヴォイス（声楽ユニット）、宮里陽太 featuring“BDS”（ジャズフュージョンバンド）、The Seventh Direction（AOR・ファンクバンド）
- ・入 場 料 予約席（指定）／1,200円  
自由席（一般）／1,000円
- ・入場者数 409人

#### (11) みんなでわっしょい！！第二弾【共催事業】

演劇企画「二人の会」との共催で、著名な俳優たちを迎えて演劇やコント、落語などバラエティに富んだ内容の公演を実施した。

- ・日 時 令和5年4月8日（土）18：30開場 19：00開演  
令和5年4月9日（日）12：00開場 12：30開演  
16：30開場 17：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 田中真弓（声優）、山口良一（俳優）、大森ヒロシ（俳優）、濱崎けい子（俳優）
- ・入 場 料 全席自由（大人）／前売3,500円  
(大学生)／前売2,500円  
(小中高生)／前売2,000円  
(親子)／前売5,000円
- ・入場者数 327人

#### (12) 宮崎BigBand フェスティバル【共催事業】

宮崎 BigBand フェスティバル実行委員会との共催で、県内で活動・活躍するビッグバンドが一堂に会してビッグバンドジャズの楽しみ方を広く紹介するとともに、バンド同士の交流や活動の場を広げてもらうコンサートを実施した。

- ・日 時 令和5年11月12日（日）12：30開場 13：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 フェニックスJAZZ 楽団（宮崎市）、New Sounds Orchestra（宮崎市）、Big Rad Band（都城市）、Music-PortaPorta（新富町）
- ・入 場 料 全席自由／1,000円
- ・入場者数 394人

### 3 企画推進委員会

委員を委嘱している地域の文化芸術団体や文化N P O、マスコミや大学講師など、様々なジャンルの個人・団体の10人の方々と意見交換会を実施した。

#### (1) 第1回

- ・日 時 令和5年11月22日（水）10：30～12：00
- ・場 所 市民プラザ4階 和室
- ・内 容
  - (1) 令和5年度文化芸術企画事業の実施状況について
  - (2) 市民プラザ指定管理者候補者の選定結果について

#### (2) 第2回

- ・日 時 令和6年3月7日（木）10：30～12：00
- ・場 所 市民プラザ4階 和室
- ・内 容
  - (1) 令和5年度文化芸術企画事業の実施状況について
  - (2) 令和6年度文化芸術企画事業計画（案）について